

# 国際研修を通じた文化財 修理の技術移転

独立行政法人 国立文化財機構  
東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター  
技術支援研究室長 加藤雅人

# 1 海外における文化財修理材料としての和紙利用の始まり

- ・契機

1966年フィレンツェ（イタリア）洪水で被災した国立中央図書館に国宝修理装演師連盟が和紙を送った。

技術指導などは行わず、また、実際の使用などについてのフォローも特になかったようである。

- ・これ以降、和紙を用いた文化財修理への興味が高まる。

（海外のconservator/restorerが日本の技術を研究し、報告、出版した。）

- ・国際研修「紙の保存と修復」以前

増田により、国際ワークショップ、研修会が行われる

1976、77年 屏風制作工程実演

1980-81年 文化庁派遣UNESCOアソシエイトエキスパートとして滞在中、欧米各地で実技研修（3週間）を行う

1990年UNESCOベニス事務所・イタリア文化省、ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）共催の「図書館資料の保存・修復国際研修コース」のうち2日間を担当

1991年ICCROM共催ウィーン研修において2週間を担当

【参考】

増田勝彦、「修復素材としての和紙とその世界への普及」、International Council on Archives（国際公文書館会議）2016 ソウル大会、三成洞貿易センター（韓国・ソウル）、2016/9/5-10  
[https://www.archives.go.jp/about/activity/international/pdf/ica2016\\_jp\\_04.pdf](https://www.archives.go.jp/about/activity/international/pdf/ica2016_jp_04.pdf)

## 2 国際研修「紙の保存と修復」の開催

- ・国際研修「紙の保存と修復」

東京文化財研究所とICCRROMの共催による。通称、JPC。

1992年開始 毎年開催

1998～2010年 隔年開催（奇数年は「漆の保存と修復」）

2011年～ 毎年開催

ただし、1998 Evaluation Seminar、2020～22 COVID19のため中止

参加者総計：228人（69か国）

- ・国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」

CNCPC-INAH（メキシコ政府の保存修復機関）、東京文化財研究所、ICCRROM、三者共催。通称JPC-Mexico

2011年 プレセミナー開催

2012年～ 研修開催

ただし、2017年 メキシコ中部地震に影響で中止（アンケートによる評価）、2020・21 COVID19のため中止

参加者総計：70人（17か国）

### 3 JPC

- ・定員 10人
- ・対象 文化財にかかわる実務経験おおよそ10年以上
- ・研修期間 3週間
- ・研修内容

#### 【座学中心】

日本の文化財保存概論：制度など  
材料学：紙、接着剤

#### 【実技中心】

装潢修理技術

具体的には：紙を切る、糊で接着する、裏打ちを打つ、を卷子製作を通して学ぶ。

#### 【視察、見学、体験など】

和紙産地見学、紙漉き体験、刷毛制作実演見学（講義含む）、装潢修理工房見学など



## 4 JPC Mexico

- ・定員 9から11人
- ・対象 スペイン語圏の修理技術者
- ・研修期間 6日間（約2週間のうち）
- ・研修内容

### 【座学中心】

日本の文化財保存概論：制度（公共あるいは民間）など

材料学：紙、接着剤

### 【実技中心】

装演修理技術

具体的には：紙を切る、糊で接着する、裏打ちを打つ、を卷子製作を通して学ぶ。

JPCよりもより基礎的な内容

日本側の担当パートののち、JPC卒業生により、日欧に比較やその後の応用研究、実用例などが続く。



## 5 東文研が主催する国際研修の特徴

- ・基礎技術の習得、材料や技術選択の考え方を教授する
  - ← 日本の歴史、伝統、文化の理解が必要
- ・海外での応用方法は示唆、教授しない
  - ← 各国の専門家が自分自身で、それぞれの国の考え方の元、それぞれの文化財に最適な方法を探す
- ・海外での材料や道具の流通事情を考慮に入れる
  - ← 実際に海外で入手に必要な情報を示す

実際の問題：実際には文化財修理に使用しない類の“Washi”、“和紙”、“Japanese Paper”が流通している。

某有名保存修復材料の販売業者：JAPANESE CONSERVATION PAPERSというカテゴリーの中に原料繊維の情報のないものや、マニラアサ（Abaca）を原料とした「Kozo」を冠する紙が販売されている。
- ・日本画等の修理技術者（装演師）の養成ではない

類似した研修としてはJICA GEM-CCプロジェクトにおける紙の研修  
一方で国際研修「漆の保存と修復」は応用が利かないため終了とした



## 6 東文研が主催したその他のワークショップ

- Workshops on
  - Restoration of Japanese Art Objects on Paper and Silk
  - Conservation of Japanese Textile
  - Conservation and restoration of Urushi Objects



在外日本古美術品保存修復協力事業からの派生

← 海外で所蔵されている日本文化財の保存と活用を促進し日本文化への理解へとつなげる

## 7 技術移転研修のポイント

- ・コーディネータの必要性： まとめ役が必要である

個別の講師が素晴らしくても研修コースとしてまとまらない

日本人技術者と海外技術者の通訳（言語のみならず）

海外での材料・道具の流通事情を理解しておく

⇒ ハード（材料・道具）とソフト（技術）を合わせて輸出する